

すずかけの木かげから（2021. 9. 9.）

さまざまな変化への対応

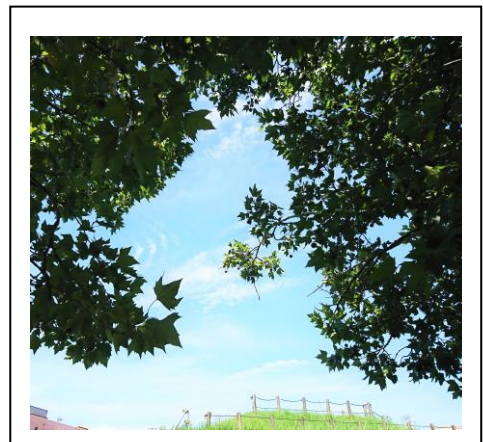
8月30日から学校が始まり、子どもたちの笑顔に出会うことができました。新型コロナウイルス感染症の拡大は、やや減少傾向にありますが第5波の収束まではもうしばらくかかりそうです。学校は、短縮授業でのスタートとなりました。なかには、感染予防などからオンラインで授業を受けている子どもたちもいます。学校、家庭と場所は違いますが、子どもたち同士が声を掛け合っていたり、授業の中で作成したシートをロイロノートで提出したりする姿をみると、互いを感じ合いながら、考えを重ね合いながら、学び合うことの大切さを感じています。また、保護者様には、体調管理はもとより、登下校時の送迎、玄関前での健康観察、下校後の過ごし方等、ご協力をいただいていることに感謝いたします。

現場実習に向き合う姿勢

高等部3年生は、進路を見据えた現場実習が7日から始まりました。実習の激励会では、一人一人の生徒がこれまでの実習をふまえ、個人目標を立てて、目標や実習に向き合う意気込みを発表しました。高等部主事からのまとめで、「目標もしっかり発表できていたが、何より発表する姿勢や態度に高3の生徒たちの意気込みやこれまでの成長を感じた。」と話がありました。私も本当にそうだなと3年生の姿を頼もしく感じました。仕事と生活の両輪をしっかり整えて、向き合って最後まで取り組んでいくことを期待しています。また、このような状況のなか、実習を受け入れてくださる関係機関の皆様には、心から感謝申し上げます。生徒たちの夢を実現するために、保護者様、関係者の皆様と一体となってこの実習を進めていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

深いつながりにより実現したセミナー

さて、1カ月ほど前の話になりますが、夏休みにオンラインで開催した『卒業後の働く生活を描くセミナー』は心に深く残るものとなりました。本校の保護者様にも20人ほど参加いただき、保護者、教職員、関係機関等から500人を超える多くの参加をいただきました。このセミナーは、社会福祉法人明徳会、社会福祉法人ライン工房、社会福祉法人慶信会の3つの社会福祉法人と本校が共同で開催し、本校の教育後援会からも後援をいただいているものです。「障がいのある子どもたちの学校卒業後のいろいろな働くかたち」をテーマとしました。全体講演や3つの事業所からの事例発表に共通していたことは、本セミナーでもサブテーマにしていた“様々な自分らしい働き方”ということだと思えます。私らしさやありたい自分などをはっきりとつかむことは難しいことでもあります。「どうありたい？」ということをもとに考え合って、そしてそのための環境づくりをしていくことの大切さを改めて感じました。



すずかけの木から見上げる秋空